

緑化重点地区《御堂筋周辺地区》緑化等の方針について



1. 地区の概要
2. 関連計画
3. 整備・事業の取組状況
4. 対象範囲
5. "みどり"に関する課題の整理
6. 緑化等の方針の検討（たたき案）

1. 御堂筋周辺地区の概要

■ 立地特性

- 大阪の代表的な繁華街であるキタ（梅田）とミナミ（難波）を直線的に結ぶ大阪のメインストリート・御堂筋を中心としたエリア。

《道路》

- 御堂筋は国道25号と国道176号から構成される幅員 44m、延長4.2km（阪急前交差点～難波西口交差点）の幹線街路。
- 東西の通りは北から土佐堀通、中央大通、長堀通、千日前通の幹線街路が走る。

《みどり》

- 4列のイチョウ並木が形成（淀屋橋～難波西口交差点）され、近代大阪を象徴する歴史的景観として平成12(2000)年度に大阪市指定文化財に指定されている。

《交通ネットワーク》

- 南北方向に御堂筋線、東西方向に中央線、長堀鶴見緑地線、千日前線が走る。



図 御堂筋周辺地区（北側区域）

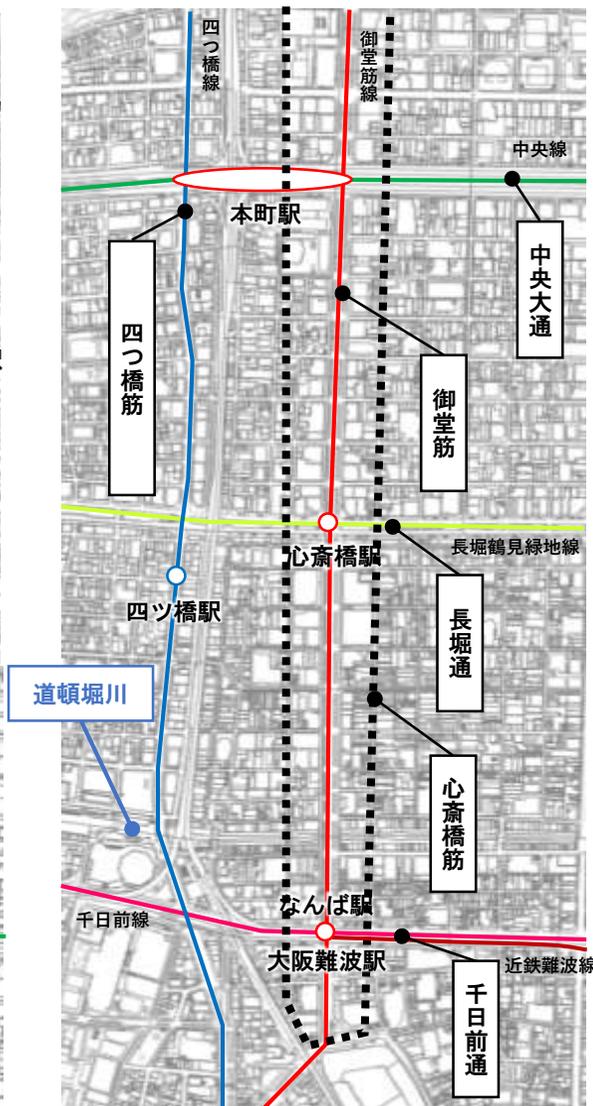
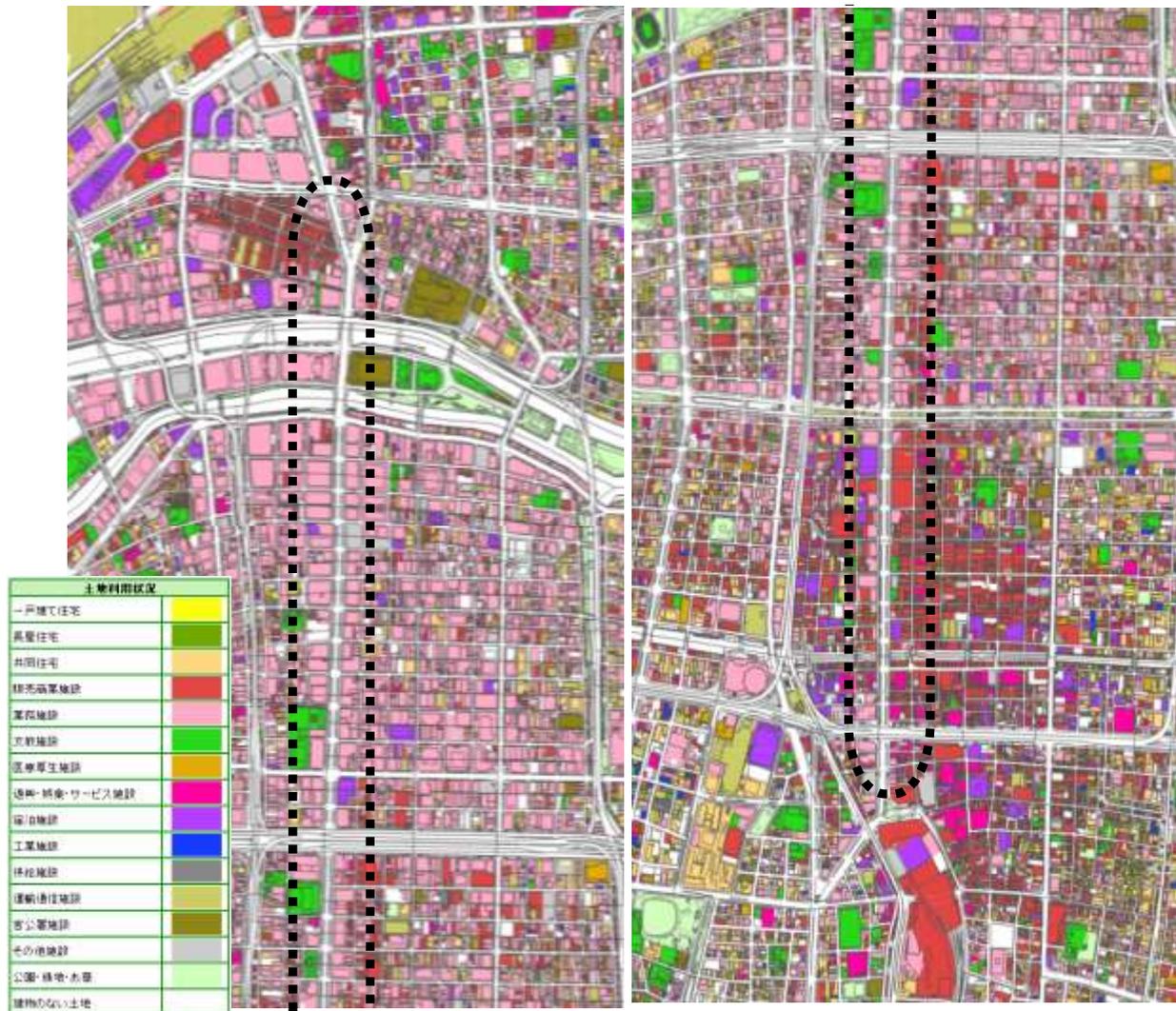


図 御堂筋周辺地区（南側区域）

1. 御堂筋周辺地区の概要

■土地利用状況

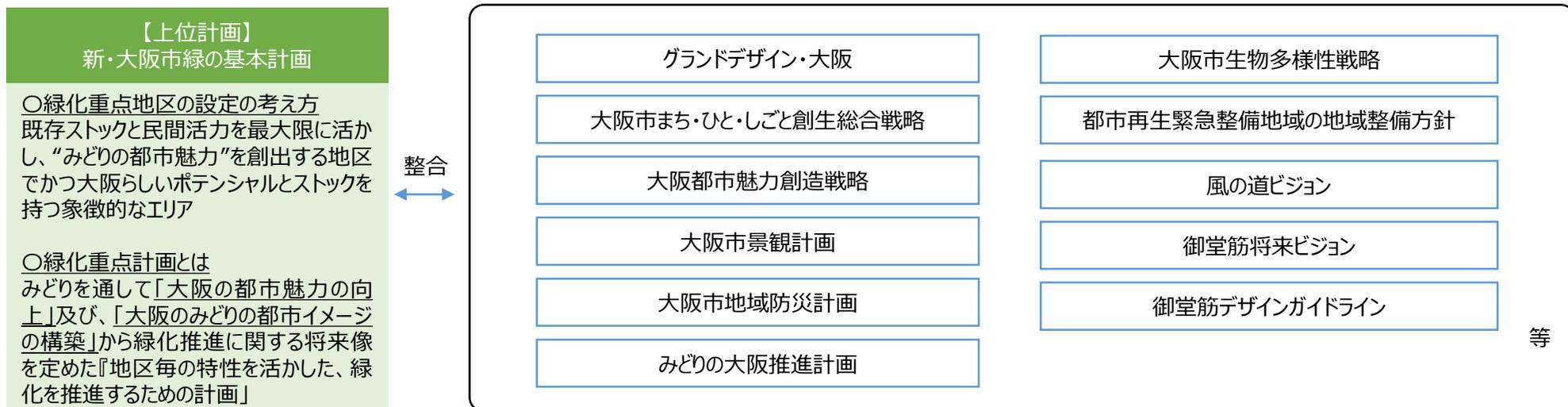
- 曽根崎通から土佐堀通りの区域では、北新地周辺に商業系が集積し、その他は業務・商業が混在
- 土佐堀通から中央大通までの区域は、業務系が多い
- 中央大通から長堀通までの区域は、業務と商業が混在
- 長堀通より南側の区域では、商業系の土地利用が多く、御堂筋の西側から四ツ橋筋までの間の街区では、宿泊施設が点在
- 中之島（堂島川、土佐堀川）、道頓堀川などのオープンスペースが横断
- 中央大通付近の御堂筋沿道周辺には、寺社や学校等が点在



【土地利用図（北側区域）H29年】

【土地利用図（南側区域）H29年】

2. 御堂筋周辺地区における関連計画



ランドデザイン・大阪 [2012.6月：大阪府市統合本部会議]

- 御堂筋の空間再編など、大阪都心の顔としての魅力・集客力を活かす
- 短期の取組み
 - ①御堂筋側道の歩行者空間化
 - ②近代建築物の保全・活用
- 短・中期の取組み
 - 堺筋～御堂筋～四ツ橋筋の魅力・景観向上

大阪市景観計画 [2020.10月施行開始：大阪市計画調整局]

- 全域が重点届区域に指定（土佐堀通～長堀通は御堂筋デザインガイドラインあり）
- 景観形成方針：大阪のシンボルストリートにふさわしい風格とにぎわいをあわせもつ街路景観の形成

大阪都市魅力創造戦略2025 [2021.3月：大阪府市都市魅力戦略推進会議]

- 御堂筋活性化事業、御堂筋の空間再編
- 御堂筋解放イベントを実施

2. 御堂筋周辺地区における関連計画

■ 第2期大阪市まち・ひと・しごと創生総合戦略 [2020.3月：大阪市政策企画室]

- 御堂筋地区は、歩いて楽しむ、24時間稼働する多機能エリアへの転換を図り、御堂筋ブランド力の向上をめざす、とされている。
- 取組：側道の歩行者空間等としての活用、ビル足元のクオリティ高いにぎわい施設導入、無電柱化 等

- ・大阪のメインストリートである御堂筋では、時代の要請に応じ、21世紀の発展を支える新しい御堂筋とするため、歩いて楽しむ、24時間稼働する多機能エリアへの転換を図り、御堂筋のブランド力の向上をめざします。
- ・歴史・文化的資源が集積するエリアでは、歴史・文化的な建物等を活用するなど、観光魅力向上につながる歴史・文化的まちなみの創出をめざします。



■ 御堂筋のブランド力の向上

側道を歩行者空間等として活用し、車中心から人中心の道路空間への転換を図ります。また、ビル足元におけるクオリティの高いにぎわい施設の誘導により、大阪のシンボルストリートにふさわしいまちなみの創出やエリアの活性化を図ります。

御堂筋の側道歩行者空間化 (難波～難波西口交差点)



御堂筋のまちなみ (淀屋橋～本町)



■ 歴史・文化的まちなみの創出

歴史・文化的な建築資源を活かした着地型観光拠点を創出するため、生きた建築ミュージアム等で選定された建築物の周辺において無電柱化や周辺景観と調和した道路整備を行い、御堂筋や三休橋筋からの回遊性の向上をめざします。



無電柱化された道路整備後のイメージ (芝川ビル周辺)

2. 御堂筋周辺地区における関連計画

■ 御堂筋未来ビジョン [2019.3月：大阪市建設局]

「世界最新モデルとなる、人中心のストリートへ」をコンセプトに、道路の枠を超えた新たな機能の導入をめざし、人中心の道路空間、出会いやビジネスチャンスの創出、最先端技術の展開、スマートコミュニティの形成など、新たな機能展開の方向性が示されている。

【空間整備の基本方針】

人中心の考え方に基づく
「移動・モビリティ」と「利活用」

移動・モビリティ

- ①人中心の考え方のもと
多様なモビリティが共存
- 歩きやすい、歩きたくなる空間へ
 - ゆずりあい、共有される空間へ

利活用

- ②「ひと」と「ひと」がつながる場の創出
- 「まち」と「みち」がつながる
 - 「みち」と「ひと」がつながる
 - 「ひと」と「ひと」がつながる

メインストリートにふさわしい
「空間の質」と「空間構成」

空間の質

- ③メインストリートにふさわしい
高質な空間の実現
- 素材感・寸法・配置等に留意した「ひとにやさしい空間」へ
 - 御堂筋・沿道の「歴史を感じる空間」へ
 - みどりが溢れる「環境にやさしい空間」へ
 - 維持管理を考慮した「持続的な空間」へ

空間構成

- ④イチョウの魅力を感じる
風格のある空間の実現
- 地上工作物のシンプルな形態と色彩によりイチョウを引き立たせ、統一感を演出する
 - 地上工作物を統合することでイチョウを風景から浮かび上がらせる
 - イチョウを眺める場所を創出し、イチョウの魅力を感じることが出来る空間を創出する



【整備イメージ】

エリアテーマ「楽しく歩ける賑わい商業エリア」



- 通行ゾーン**：歩行者と自転車の通行空間を分離（歩行者の通行機能を重視）
滞在ゾーン：観光客が立ち止まって休息でき、周辺観光情報を知ることができる空間
利活用ゾーン：周辺観光の情報発信を行うことができる空間
多機能ゾーン：季節の彩を演出する花々や休息空間、沿道商業の営業を補助する空間

エリアテーマ「落ち着いた賑わいを感じる、高質商業とビジネスの複合エリア」



- 通行ゾーン**：歩行者と自転車の通行空間を分離（高質商業への来訪者等の通行機能を重視）
滞在ゾーン：高質商業等への来訪者やビジネスワーカーが立ち止まって休息でき、緑を感じることができる空間
利活用ゾーン：高質商業がプロモーション等を行うことができる空間
多機能ゾーン：落ち着いた雰囲気を出し出す緑や休息できる空間

エリアテーマ「上質な賑わいと風格のある洗練されたビジネスエリア」



- 通行ゾーン**：歩行者と自転車とが共存する空間（歩行者を優先としながら利便性を維持）
滞在ゾーン：ビジネスワーカー等が休息・交流できる空間
利活用ゾーン：壁面・退席を活用し、ビジネスショーケース（展示会・プロモーション等）として活用できる空間、カフェ等の交流空間
多機能ゾーン：落ち着いた雰囲気を出し出す緑や休息できる空間

現況



ファーストステップ 側道歩行者空間化

- ▶ 短・中期目標
 短期目標：千日前通から道頓堀川区間は東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年
 中期目標：道頓堀川以北は2025日本万国博覧会が開催される2025年



将来ビジョン

人中心〜フルモータル化

- ▶ 長期目標
 御堂筋完成100周年(2037年)をターゲットイヤーとして設定

